

長泉寺

岳越山の麓、浄土真宗本願寺派、唐津街道沿い



長泉寺全景（背後の山が岳越山）

朝晩六時には岳越山（標高119 m）の麓、長泉寺から鐘の音が響き、1日の始まりと、終わりをつげます。

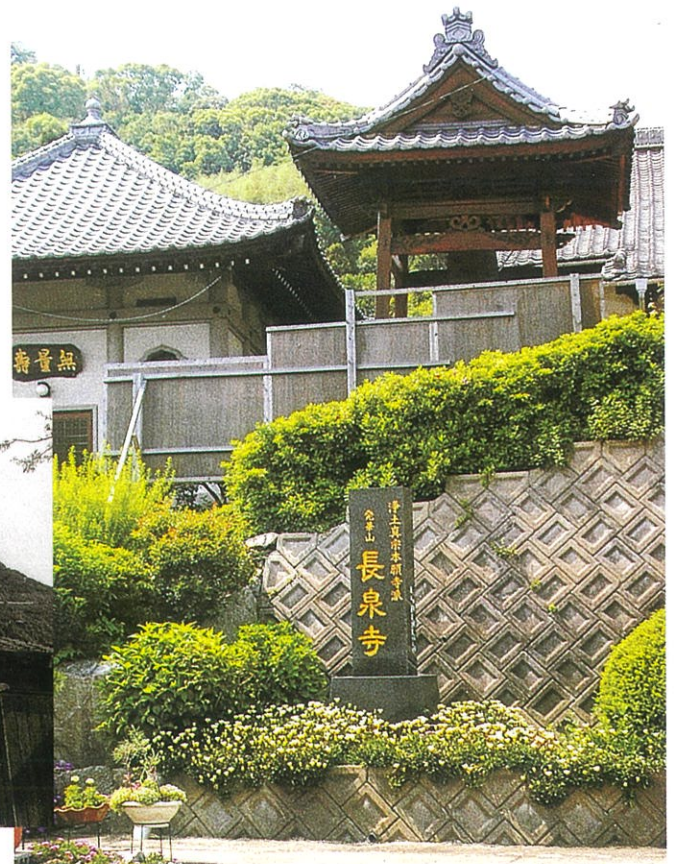
唐津街道青柳宿の西構口から南へ800 m、街道沿いに、浄土真宗本願寺派（西本願寺）発花山長泉寺があります。

加藤一純の筑前国風土記附録（1798）には、「長泉寺オハラ、真宗、佛堂四間四方、發華山と號す、萬行寺に属せり 寛文十三年七月、林節と云僧に本山より、寺號木佛を許さる」とあります。

明治5年（1872）に編纂された福岡県地理全誌には、「^{ヲハラ}小原ニアリ。發花山ト號ス。真宗西派。中本山博多萬行寺末ナリ。開基ノ僧ヲ林澤ト云、正保元年甲申正月、創建ス。寛文十三年癸丑七月、林節ト云僧ニ、本山ヨリ寺號木佛ヲ許サル」。正保元年（1644）に創建され、寛文13年（1673）寺號木佛を許可されたことが分かります。



昭和30年ごろの旧本堂



鐘楼

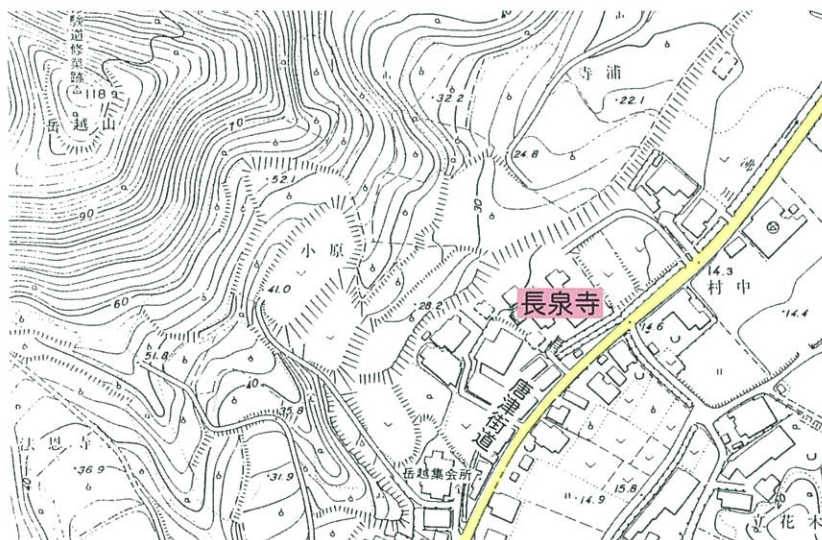


十代松下普明顕彰碑

本尊の阿弥陀如来像は、創建時からのもので、境内の碑には元の位置から移された、十代松下普明住職の顕彰碑があります。普明は嘉永5年（1852）に朝倉郡で生まれ、明治11年（1878）に長泉寺の住職になりました。



阿弥陀如来本尊



そのかわら青柳小学校や青柳夜学会などで教鞭をとり、多くの人材育成にも力を注いでいます。人物温厚で誠実、碑は漢学者の江島茂逸撰、碑文の終わりに漢詩が詠まれています。

『立花之麓 滾々長泉 清流灌溉
千頃沃田 子弟三百 成材翻々
風厚俗美 永劫結縁』

※萬行寺は博多祇園町にあります。真言宗西派で、15世紀末に山城国から空性が博多に来住し16世紀中頃、寺號を許可され、二世理慶の時に、寺を造立しています。